【様式①】令和4年度　学校評価書（小・中・特別支援）

学校名　岐阜市立長森中学校

校長名　宮川　晴光

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	・生徒に関する問題行動やいじめが起きた場合は、関係職員間ですぐに情報を共有し、いじめ対策監のリードのもと、管理職の指導も踏まえ、指導の方向を明らかにし、早期の解決を目指す。 ・学校ホームページやスマート連絡帳を積極的に活用し、情報発信に努め、情報共有の拡大を図る。	A	・問題行動やいじめ事案が起きた場合、担任から事実報告を受けた学年主任がいじめ対策監と情報を共有し、その後、管理職と指導の方向性を決定することで組織的な指導を常に行うことができた。その結果、早期の問題解決につながった。【教職員質問紙調査：いじめ事案等に関する組織的な対応→肯定的回答率**100%**】 ・スマート連絡帳を積極的に活用し、生徒の姿を家庭や地域に発信できた。また、新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖等の対応についても迅速に保護者に情報を送ることができた。【保護者アンケート：学校HPや保護者配信メールによる情報共有→肯定的回答率**95%**】	・問題行動やいじめ事案に対して、学校は迅速な対応ができていると感じている。生徒と教職員の信頼関係のさらなる構築を期待したい。 ・不登校生徒が抱える不安や悩みにこれまで以上に寄り添い、より手厚く支援、指導を行っていくことが大切である。	・生徒アンケートで「どんな理由があってもいじめはしてはいけないと思うか。」、「先生はいじめや困っていることがあれば支えてくれたり、助けてくれたりすると思うか。」の問いに対して、数名否定的な回答の生徒がいた。さらに生徒に寄り添う指導体制を整備していく。そのために、生徒に積極的に声をかけたり、生徒の様子を共有したりすることを大切にする。 ・不登校生徒に対して、その原因、現状、今後の目指す姿をより明確にした上で、指導の手だてを組織的に検討する。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	・学校の教育目標の具現に向けて、カリキュラム・マネジメントを機能させるようにする。（特に、学年会や指導部会における評価・改善活動の充実） ・研究推進委員会や学習指導部会を中心に、一人一人に確かな学力を身に付けられる指導をすすめる。	B	・教科、道徳、総合的な学習の時間等の指導において組織的な評価・改善の連鎖によって、質の高い教育活動を生み出し、学校教育目標の実現に向けて推進できた。【教職員質問紙調査：評価・改善活動の実施→肯定的回答率**82%**】 ・PDCAサイクルにもとづく研究体制により、研究主題の具現につながり、生徒の資質・能力が育成できた。【教職員質問紙調査：研究主題の具現につながる議論→肯定的回答率**79%**】	・大変落ち着いた授業姿勢ではあるが、逆におとなしすぎるのではないかと感じた。授業中に、もっと元気で、生き生きとした生徒の姿があるとよい。 ・アンケート結果からも主体的に学習をする姿勢に弱さがあると感じた。やる気、本気、根気をもって学習に取り組める魅力ある学習づくりに努めていけるとよい。	・生徒が課題に対してワクワクして主体的に取り組めるよう、教科部会で十分話し合い、指導の手だてを研究推進委員がまとめ、全職員に共有する。また、全校研究授業後、学んだことをもとに各教科で部内研を行う。 ・教職員が定期的に指導の評価・改善が行える場を月曜日に設定する。また、そこで出された意見をすぐに取り入れ、実践をすすめる。 ・道徳で学んだことを日常生活で実践した生徒を見逃さず、すぐに価値づけていき、道徳と日常をつなぐ指導をさらにすすめる。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	・地域の教育資源を十分に活用した総合的な学習の時間やキャリア教育（1年生の職業講話）を推進する。 ・地域活動へのボランティアの積極的な参加を通して、地域の一員としての意識を高められることを目指す。	B	・総合的な学習の時間において、1年生は防災・キャリア、2年生は福祉・平和、3年生は国際理解をテーマに探究プロセスにもとづく学習ができた。また、各学年でテーマに関する講話等を実施し、生徒一人一人が自分の生き方について考えることができた。 ・昼の放送等を活用して、地域の方々からボランティアの啓発をしていただく取組を行った。その結果、ボランティアへの参加意識を高めることができた。【生徒質問紙調査：ボランティア活動参加についての意識の高まり→肯定的回答率**64%**】	・コロナ禍以前のように、学校と地域が協働できる活動、行事を啓発し、生徒の関心を高めていけるとよい。 ・コロナ禍によるボランティア活動の減少も原因かと思うが、アンケート結果から、ボランティアに対する生徒の意識低下がうかがえるため、心配している。	・年間計画に「ひと、もの、こと」の活用を明確に位置付けていく。特に「もの」の整備を早めに行い、学びの環境を充実できるようにする。 ・ボランティアの啓発は、今年度、同様、地域の方が生徒に直接働きかけてもらうようにする。また、ボランティア活動を行った生徒の様子や気持ちを他の生徒に伝えるとともに、教師からの価値づけも行っていく。
教育環境と学校財務環境の整備	・ICTの効果的な活用等の指導法を工夫した授業を進め、個別最適な学びの実現を目指す。 ・環境の整備・維持や充実した教育課程の実施に向けて、適切な予算計画及び執行ができるために、事務職員と教職員の連携を密にする。	A	・各教科の授業で、タブレット端末を活用し、工夫した指導を多く行うことで生徒一人一人の学びが深まった。【教職員質問紙調査：ICTの積極的な活用による生徒の学びの深まり→肯定的回答率**85%**】 ・教職員と事務職員の連携により、適切かつ有効な予算執行ができた。【教職員質問紙調査：学校予算の有効活用→肯定的回答率**100%**】	・タブレット端末を活用した授業が多くあり、自分たちの時代とは全く違う様子に驚くとともに、生徒たちも道具として使いこなしている。しかし、いくらICTが導入されたとはいえ、対面授業のよさも大切にしてもらいたい。	・多くの教科でタブレット端末を道具として活用し、分かる、できる授業づくりを行った。しかし、教職員や教科によって活用頻度に差があるため、効果的な活用方法を共有できる体制をさらに構築していく。 ・ロイロノートの積極的活用と学びが深まる活用方法について研究推進員会を中心に検証していく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・生徒の命を確実に守る危機管理マニュアルを作成し、全職員がその内容を理解し、有事において、適切な判断のもと指導できるための研修を実施する。 ・国、県、市からの新型コロナウイルス感染症に対する感染対策を踏まえた柔軟な教育課程の実施を行う。	A	・ケガや熱中症、アレルギー対応及びケガや病気など生徒の生命を第一に考えた指導や対応を行うことができた。【教職員質問紙調査：安全指導の徹底→肯定的回答率**100%**】 ・新型コロナウイルス感染症における不測の事態に対して、校長の指示のもと、学級閉鎖や行事の延期等について適切な対応ができた。	・適切に対応してもらい、生徒の安心や安全が保障されている。大変、素晴らしいと感じる。 ・自転車通学者もいる多くいる学校で、交通マナーをしっかりと守って登下校できるよう、指導を行ってほしい。	・特に、食物アレルギーのある生徒が、除去食を食べることを、学級担任が確実に見届けられるようにする。そのために、管理職や学年主任が定期的に学級担任へ指導する。 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を踏まえた学校運営を進めていく。

HPアドレス：　https://gifu-city.schoolcms.net/nagamori-j